

6 本体起動の仕方

- ベースステーションとトランスミッターは、1.5m ほど離してテーブルの上に置いてください。電子機器や無線機器などの干渉源に近づけないようにしてください。
 - ベースステーションのディスプレイから保護フィルムを剥がしてください。
 - 単四電池3本を裏側のカバーを開けて挿入して下さい。
 - 付属の電源アダプタをベースステーションに接続してください。
- 電源アダプターをベースステーションのジャックに差し込み、電源アダプターを主電源ソケットに 接続してください。
※重要 家庭の電圧が 230V であることを確認してください！ そうしないと、デバイスが破損する可能性があります。
日本の家庭用電源AC100Vで使用する場合は、別途、AC100V-200V変圧アダプター(別売)を使用して下さい。
- デバイスがピープ音で警告を発し、すべてのセグメントがしばらく表示されます。
 - 室内の温度と湿度がベースステーションのディスプレイの左側に表示されます。右側は、外部センサーに表示。

6.1 トランスミッター(外部センサー)の起動方法

- トランスミッターのバッテリーコンパートメントカバーを外します。
 - 新しい単二電池を2個、屋外用送信機の電池収納部に挿入します。極性が正しいことを確認してください。
 - 電池のマイナス極を先にホルダーに挿入し、コンタクトスプリングを一緒に押します。
- 注意してください: バネを曲げないでください！
- 送信機の電池収納部カバーを慎重に元の位置にねじ込みます。
 - 電池が挿入されると、屋外値がベースステーションに送信されます。スイッチはありません。
 - ベースステーションが外気温を受信すると、外気温、湿度、風速が常時表示されます。
 - 3分以内に外気温の受信に失敗すると、ディスプレイに“--”と表示されます。電池を確認し、再度お試しください。干渉源がないか確認してください。
 - 手動で受信を有効にすることもできます。ベースステーションの▼ボタンを2秒間長押しします。屋外送信機の受信マークが点滅します。登録した送信機(チャンネル)が解除されます。

7.1 時刻と日付のマニュアル設定

- 通常モードでTIME SETボタンを3秒間長押しし、設定モードに入ります。
 - ディスプレイにピープ音(ON=デフォルト)が点滅します。
 - または▼ボタンを押すと、キー音が鳴ったり鳴らなくなったりします。
 - 電波受信(RCC ON-初期設定)、タイムゾーン(0H-初期設定)、12時間制または24時間制(24H-初期設定)、時、分、年、月、日、風速単位(BFT-初期設定)、温度単位(°C-初期設定)、曜日言語(GER-初期設定)の順に設定を行います。または▼ボタンを押して調整します。
 - TIME SET ボタンで設定を確定します。
 - DCF 時刻信号が正常に受信されると、DCF 受信が有効になっている場合は、手動で設定した時刻が上書きされます。
- ※日本では、ドイツの電波が取得できないため自動で時刻は上書きされません。常に手動設定となります。

7.1.4 風速単位の設定

- 設定モードでは、風速単位を BFT(ビューフォート)または km/h(キロメートル毎時)から選択できます。または▼ボタンを押します。
- TIME SET ボタンで設定を確定します。

7.1.5 温度単位の設定

- 設定モードでは、温度単位を°C(摂氏)または°F(華氏)に変更することができます。または▼ボタンを押します。
- TIME SET ボタンで設定を確定します。

日本で使用する場合の基本設定は以上です。
※他のオプション項目については「GB(英文)」を参考にして下さい。

スペックについては、英文の取扱説明書をご覧ください。